称	(3	习:	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	発行 新潟県公民館	
5	R	館月	報	新潟市衛 越佐自治会館内(電 厳蓉口座新 三月号	n
してもらうと、茶の際しても見いれては前記小委 講師の軍業内容につて語ら	また。 それ、 ためで、 極力、公 満師 ため、 まとして いて 開 に た の で、 を れ 水い で を れ 水い で を れ 水い で を れ 水い で を れ 水い で を れ 、い で を れ 、い で を れ 、い で を れ 、い で を れ 、い で を れ 、い で を れ 、い で を れ 、い で を れ 、い で を れ 、い で そ た の で を れ 、い で そ た の で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	くくってにあるましか。そのため「あるか」加方見隠不如海の時間 年度は二〇万円一平度 の泉子賞で新県教	催	る協議事項は次のとおり。 べきではあるまいか。等々の意見を審議し、可続いて評議員会を開第において開催された。その主な専門部会か、実行委員会かを作る。き、規約改正案、決算案、予算案館において開催された。その主な専門部会か、実行委員会かを作る。き、規約改正案、決算案、予算案館において開催された。その主な専門部会か、実行委員会かを作る。き、規約改正案、決算案、予算案	もっと地についた活き
と。	しぞく望たほ	六、七、八の三日、 通奈記:お 市町村行販を運搬していない果状 「平慶公民館職員会は、三月 葛塚町初役として一部、民館側の 「平慶公民館職員会は、三月 葛塚町初役として一部、民館側の 「平慶公民館職員会は、三月 葛塚町初役として一部、民館側の 「一一各講師体験を通・	部門には、 「「「「」」」」、 「「」」」」、 「」」」、 「」」」、 「」」」、 「」」」、 「」」」、 「」」」、 「」」」、 「」」」、 「」」」、 「」」」、 「」」」、 「」」」、 「」、 「	し会で研究 目と事業に	動を つい 参照
			とした。なお詳細に を活発ならしめると でが見いました。なお詳細に	事よい 館十	た本会の組織、 会を構成する。各理事は幹事会の 教委、教育長等の啓蒙事業を行うと となってい 現在の幹事を理事に改め、理事」る事業としては、市町村理事者、会で研究すると を理事会に反映するようにする。 た県の補助金(共催分損金)によ離すれ、小委員 に研究 協議すると ととし、これ 見交換を行うようにすること。ま幹事会にて協 会等の専門部会を担当し各部会毎 らを結果する会にし、充分なる意
●四月(日未定) ●四月(日未定) 役員会 ボベガ	四三十一年度の反省 の三十十三日(水) の三月十三日(水) の三月十三日(水)	●三十二半度予常扁成方計	全公連より理事会(三月二十五日東京都豊島区振興会館)の開催通東京都豊島区振興会館)の開催通東京都豊島区振興会館)の開催通東京都豊島区振興会館)の開催通東京都豊島区市、新職員組合よいのであら自主的にも参割し得ないので	以上のほか、緊急議題として、 して各公民館の求めに応すること などを決定。	教委、教育長等の啓蒙事業を行うる事業としては、市町村選事者、た県の補助金(共催分祖金)によた県の補助金(共催分祖金)による事業としては、市町村選事者、見交換を行うようにすること。ま

第50号(毎月1回発行)	新	潟	県	公日	€	館	月	報			四	和32年	3月25日	(2)
					もう一歩進めて、 院路の開き方一〇開催の場所を鉄道本線の近くに一〇主催者間と宿側ともっと連絡を(ままたもようまた)で、 たま、「これをおくると、「したちとんた、 た	〇受滞者はお開を設守すべし。 〇受滞者はお開を設守すべし。 〇従来と違って、第一線の暇員か	間が懲しかった。 だった。	著も、もっと個人的に話合える時一〇受講生からも話を出させるべき 分野の内容も加えて行くべきだ。 ○事業が主題になったが、専門的	〇会場に案内するポスターが無か	などは大いに腹をわってもらいた 〇はんにゃ湯が足りなかった。 講師方も向くならないで、Rの時 念が理解を集まされるよど長り、	しかした	りっ、トリーキサーと検られ、こここ。 〇中央の講師を呼び寄せてやるよ。〇みのやの女中さん方が親切だっ	評価表に出た主な感想	manneuronannannannannannannannannannannannannan
		P		よくして、悪い印象を与えるな。	○主催者側と宿側ともっと連絡を 慮た気をえた。た	合いの時間とそのためのプロの配	○講師を中心にした受講者との話	○事業が主題になったが、専門的	傾向を知り得なかった。	○実態発表は良いが、新しい制度	修得できる内容がほしい。	Oプログラムに、視聴覚も加えて	○下越ばかりでなく、上越でも開	○研修資料代が高い。○温泉地にしてくれ。
 本品のや旅館を会場としての講習 課本村主事の大学して、自動的に本紙「特派であったが、行川主事の計算に 買」に任命されます。これは不文であったが、行川主事の計算に 買」に任命されますのケッ作です。早速何があるかを知っている。 御田込みを。 本品額の計算がメチャクチャ えずして、自動的に本紙「特派作年は帳場の計算がメチャクチャ えずして、自動的に本紙「特派であったが、行川主事の計算に 買」に任命されます。これは不文であったが、行川主事の計算に 買」に任命されます。これは不文であったが、行川主事の計算に 買」に任命されます。これは不文であったが、行川主事の計算に 買」に任命されます。これは不文であったが、行川主事の計算に 買」に任命されます。これは不文であったが、行川主事の計算に 買」に任命されます。これは不文であったが、行川主事の計算に 買」に任命されます。これは不文であったが、行川主事の計算に 買」に任命されます。これは不文であったが、行川主事の計算に 買」に任命されます。これは不文であったが、行人」の書のため、当時のに本紙「特派」 	村里		。習の各委員長は左記の通り	のです。サンザ泊って銭が皆える		一年は、亀山主事が申すには「いま					講 コ み の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・			~討論会
R 金子 原 一 要 一 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要	家、兼二 ケ 所名田中央評高岡県治郎 ク 中精村松町	©八幡吉次郎 書 記 村上市 民高橋 芳之 ク ク 類波	生箭木健一 ク 村上市上大塚和喜男 書記 北浦佐	◇第三班 / 三島西越村	渡辺三省・	· 通口 关一 主 事 三系市 · 評橫山旭三郎 館 長 加茂市	岩 天 1	保科 瑞穂 ク ク / 二 斎藤 永吉 書 託 栃尾市中央	敦 主事補	松岡善之 ケ ケ ケ ケ 畑井正治郎主 事 ノ 宮内	古小野塚松一 ク ア深才 内山 康博 ク ク 山本	水沢一般夫主事補・ク・栖吉中村武夫主事・ク	◎伊藤武男 主事 長岡市	講習生名簿
価はく 下 と 生 評 の 々 松 都 本 第 御 木 第 総 松 耀 変 り 出 法 伊 神 木 第 総 松 郷 本 第 総 一 一 二 浩 伊 神 木 第 米 総 一 一 本 第 一 二 二 浩 一 神 本 第 二 米 二 一 一 本 第 一 本 第 一 本 第 一 本 第 一 本 第 一 本 第 一 本 二 二 一 一 一 本 第 一 本 二 一 一 本 二 一 一 本 二 一 一 本 二 一 一 本 二 一 一 一 本 二 二 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	◎岩野一鉄三、教育長・1/ 大島 一松苗 吉俊 智証 東露安稼町	利根川一男 主事	田中三郎主事	石川 勲書 記	勝辛	生関原 賢照 書記補 新井市	◇第六班	赤川佐市教会	「「り」にには「目」「「「」」「「」」「「「」」「「」」「「」」「「」」「」「」」「」	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	影の	· 靖之 雪 雄 書 記	· 🖌 – h/+	田辺 文夫 / 川羽高柳町 宮野 重男 / 中魚津南町 宮山 芳雄 書 記 南魚六日町

(3)	第50号	(毎月10			新	潟	県	公	民	館	月	報					昭和324	丰3月25日
題については二枚以内にとりまとめるようお願いします。	社会にした宣言目によりついたりといいて、会社は観日でさい。なお、分科会の問題点とその対策については一分違作県公遇単位に、来る匹烏十五日きでに大会事務局長走て領	いては各部道府県公理においてあらかじめ研究協議の上、各都部では各部道府県公理においてあらかじめ研究協議の提出議題につ	の成果力のどのに	に可にたったようからったいため、「「「ない」ないでは、「「かった」」で「「ない」ない意見」になって、「ない」ないでは、「「ない」ないで、「ない」ないで、「ない」ないで、「ない」ないでは、「ない」ないで、	うり、、「日前、こうらう」の「学をなって、「単合本、ていました」首切後日本に反ち、とうもら、過去のきびしい反省の上に立一会、大分県連合青年団、大分県高一貫、市町村長及び関係者、社会教第六人国大会はこのような意味か「町木会、大分県婦人団体連絡協議」です。「『リフヨーユ』と目上目	る時期に頂面している。 四、協賛大分県市授会、大分県年のあるにている。	まま放置されており、又公民館十一連合会、大分県、別府市、日本放置されており、又公民館十一連合会、大分県、別府市、日本放	館にはなお多くの問題が未解決の「協議会、大分県市町村教育委員会をもたらした。しかしながら公民」会協議会、全国市町村教育委員会	難や障害を克服して、今日の落展三、後援(全国都道府県教育委員ずる思衆件に触え、さまざまな迷」所引参言委員会	の間公民館関係者の努力は、山積総協議会、大分県教育委員会、別と、会	活動が提唱されてから十年余、そ 民館連絡協議会、大分県公民館連 三日間 会教育の中小施設としての公民館 文部首、新生活運動協会、九州公 日(水)九日(木)十日(金)の	一、閉催披宮 わが国に始めて社に、主催 全国公民領運絡協議会、大、期間健要報	第六回全国公民館大会進め、公民館発展のための確固た協会、次分市徳光協会	ら、それまでに当県社会教育課院申込まれたい。	の要綱を発表した。なお市込みは四月十五日までに大分県社教課に申込むこととなっておりますか	全国公民館連絡協議会、文部省大分県教育委員会では、かねが	全国公民館大会要綱発表さる	別府市・五月八・九・十日
十二、大会事務局 大分市荷揚町 一一、大会事務局 大分市荷揚町			十、参加申込参加者は左記申込県は六〇名程度	各部賞守県自立内三つろ、 し州各九、参加人員約一、五〇〇名、管員付日位有記書、その伯	新国系計本化長者、そう社会教員、市町村長及び関係者、社会教		委員、都道府県教育委員、都道府	よる女育な夏、公長宮重著書義(1)公民館職員(館長、主事、書記等)	一八、参加者都道府県公連役職員一別府市立上田の湯	七、会 場 別府市中央公民館、	〕九日(木)十日(金)の	(六、期8日昭和三十二)年五月八(五、開催地大分) 嗓別府市	上協会、大分市観光協会		に申込むこととなっておりますか	かねがね協議中であったが、次の通りそ	「要綱発表さる	十 日
第二分科会		第一部会	文館を	十一時 講 演	別 府 市 長祝辞大分県知事	九州公連協議会長一新生活運動協議会長一	文部省社教 局	按一一扮"一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	八時半一受付開始。第一日(五月八日、水曜日)		教育委員会社会教育課長)	課內、第六回全国公民館大会事務		〈 会事務局長あて御送付願います。	く るよう御願いします。なお、	← 等の展示会を開催しますので	図表、標型、視聴覚教育用具、生活改善語 大会注日会集の一部において、公民館等	展示会出品
大分県山香町中央公民館 28農業を中心とした町村 20月前の人口中央公民館	2商工業を中心とした都市	- 1882 アクリチョン	トニ寺氏、大子長郎と芸指 カルド、安和会英表及び全体奇麗	「五降は	建設事業等)と公民館活動と	村起し運動(新生活運動、新	っればよいか。	公民館活動の大衆化をはかる一第四分科会	会民館の活動に関する部会第二音会	どうすればよいか。	公民館の財政を確立するには第三分科会	うあるべきか。		5 4 0	るよう御願いします。なお、出品物は四月三十日までに大	等の展示会を開催しますので、できるだけ多数御出品下さく	図表、模型、視聴覚教育用具、生活改善用具産業教育用具、大会当日会場の一部において、公民館活動に関する写真	品物 募集
、よって承知願います。申込用紙、本で不知願います。申込用紙		○参加者をお送り致したいと存じ、へ、かる訳ですが、なるべく多数のですが、なるべく多数のです。			第一つのにに加たりました。 第一との民館活動と 一部によりたくにく、これにしている。 「「「「「」」」でいる。 「「」」」でいる。	新言をお計いいたします。 加申込書に希望の有無を御記入下	地獄めぐら等の御光が多く、これ四、関西汽船利用者に対し、船員		産業大博覧会が開催されており、「連絡いたします。から五月二十日まで別府温泉観光」たします。なお容許所名は後日御	一、 別府市においては三月二十日< 食七〇〇円程度で宿泊を御斡旋い		参加者の	գը. Գերերեր գլիներինը։	オについた」	「因習を打破するにはどうす	九 時 放送討論会	第三日(五月十日、金曜日)	受任ひせれ 青野こつここ 一三時十分記念 諸演 十三時十分記念 諸演
充分にご注意下さい。	約した宿に迷惑をかけますから、だけで不参の方があります。予	☆いつものことながら、申込み 注書をみて下さい。	方にお送り願います。なお記入	れによって御田込み願います。		加申込書に希望の有無を御記入下一の二割引券をさし上げますので参	2、関西汽船利用者に対し、船員	駅表口及び別村巻桟橋に設けます	連絡いたします。なお容治所名は後日御	長七〇〇円程度で宿泊を御斡旋い	大会事務局よりー	の皆様へ	լինեսվիթնվի Հ		十一時 市内見学	万蔵三唱	大分果公連会長 授 拶 全公 連副 会 長	「小公式の水」を当

ķ

第50号(毎月1回発行)	新	潟 県	公	民	館	月	報		昭和	32年3月25日	(4)
1000000000000000000000000000000000000		こでいます ひとう ゆうしょう ゆうしょう しんしょう しんしょ しんしょ			おります。 兼會時七ー 6年 ハニろ 縦になっています。 観音にも聖観風で、肉付けも豊かで堂々として の 菩薩像は 著衣も 冠物も特物も 復	ただきたい。一見非常に反実な作一来隊に対して観音、勢至、彌勒等	「で、まあ全体の感じをつかんでい」答 釈迦、阿彌陀、大日などの如二客 細部は写真ではわからないの一式は	間との仏像の特色は? 湖上の仏像のちな観音像の形 北倉注却小土的 円符引 湖 中菊あ考議田本 現5名演	一躯の木像十一面頸音坐像	武み新県宝を紹介する。	新県宝七点
問 四点の記録とはどういういわ 問 四点の記録とはどういういわ 問 四点の記録とはどういういわ	で、従五位を贈られています。そいられたり、仲々功績のあった人、陽層を始めて集議院に建策して用、陽層を始めて集議院に建策して用な原理を唱えたり、又明治二年太	っています。有名な「三元素略説」という著述略待もきま、一密)天文、地理暦学等で、背軒は観音につく、数学(末集)物共(船共)化学、含	谷 幕末に小千谷か歩んだ偉大な	んなものですか。							
った別牛山、近世には村上 したいわゆる平城(ひら うになりました(例、 高田 た城は中世には本庄氏のよ た城は中世には本庄氏のよ		第111歳、平木成、急反成、■ 第111歳、平木成、急反成、■	はおの天策主義で、山麓には苦舘の数育委員会答 中世豪族の山城(やまじろ))答(仮招定とする			●「ヒーホ」 受けた師僧であります。	「育は上杉謙信が幼時、くんとうを「天室の書入れがあります。 天宰光	以来珍重した版本です。これには	僧の語録から抄録したもので日本	の中でも祥林類楽という二十巻曲型的資帯であ述、警写本、書人本などです。そ一大品城とした応、天曜光育という二祥師の著山下をくるめて応、天曜光育という二祥師の著山下をくるめてしたの時寺に住山した有名な暴央義 繁栄させ、山上	厳寺は香日川休泉寺の末芽ですが、町を都市として 答 みな禅宗関係のものです。 楞 代の藩主が村上 れのあるものですか
		で、その有効期限の二ケ年間は国	の教育委員会が国から権限を委譲 答 仮指定というのは、都道府県	例はどうです	よいうのはどういうものですか。 す。 国の者定が行わる物だときいていますが、 仮指定 法的効 果を有 しま	問 この 杉並木は 仮指定の 天然記	彦村職彦	「硼塔家道並木」へ、「「「「「」」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「	G 「 大 然 記 念	典型約貨幣であ 蒸業させ、山上 第二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	町を部市として 氏、明氏以下数
日 延年とは?との表問 延年とは?との表問 延年というのは、ですか。 を延年というのは、「口にいえば、平安朝」とも見られる程各種の	の馬場大門棒並木等がの馬場大門棒並木等が			されるをそれのある場合を考慮しる前に現状が変更されたり、破していた。	一す。 国の 岩 足が 庁 わ	の行った指定と同じ					
			************************************	されるをそれのある場合を考慮した。刈羽の綾子舞などととわに、る前に現状が変更されたり、破壊一豪能がとり入れられたものでし							

ł,

	第50号(毎月	1回発行〉	新	潟	県	公	民	館	月 幸	袃		昭和	132年 3	月25日
学的な各種講座を分散的に数多く一団体をはじめ、青年、婦人会などか、直接市民とつながりのある科 同公民館に事務所を置く二十五	た自動車、栄養料理 る。 た自動車、栄養料理 る。	作用 域 者 フィゼ 歳 ルる 目 講	■余は、三十二至安の重省方針とく見念も文質の家舎仕留高田市中央公民館の運営審議委 開く。	活の村を鑑賞、島川講師の「新生」なるべく標準語を使うよう心掛」て発表が行われ、続いて映画新生」二、上西組(十六戸)	(年の)訪門集会の反省と希望につい」守らせる。	「上東組(十八戸)	過日、吉岡分館で新生活導動吉岡」 せ具真またりというである。 の訪門集会が一応終了したので、	上開かれたところもあり、全組合います。年十二月より開始して既に二回以りのやさしい支柱になりたいと思	岡分館では各組毎の婦人集会を昨一手をつないで明るく豊かな村づくその成果をあけている。中でも吉」い生活感情をふりすて、ともども	の研究会などがもたれ、したいに さなせまい、そして道理に合わな われ、 真野町でも各部落分館ごと 念顔 私達会員はお互いに小	プでの話し合いが必要であると言い合った。 言われており、更に小さいグルー言をきめて、これからの活動を薪よる。 い問題誰でもできるものからとの講真後、懇談会に入り、次の宣ん、	新生活運動はまず手近かな小さ「活運動に就ての基本的な考え方」 ける。 始めに、お父さん、お母さ一六、浜田組(十九戸一手、野、町、公、民、館 一番具の衛生化。	9 訪問集会の念	せまい生活感情をすてましょう
(広報たかだより) た	ペンキ塗管えなどの補強を行う。 業しており、昨年に引続き、外部の一部の十五年来の建物で差朽化の施設の強化		◇ 新E 5 里切 式	なるべく標準語を使うよう心掛。良公民館として、市教育委員会よ」との分館は一、上西組(十六戸) 先じろ、第五分館(昭吉)が優」の表彰された。		うまく い	上春めさす。 	事用具の設備による衛生文化の同事用具の設備による衛生文化の同	国家町四日町を	レコーダーと座談。 毎月一回修養日をもつ。テープ	打衆祖(十三)	ける。 始めに、 などさん、 お母さい は 日 一 一 、	願	
る上においても相当大きく影響を一般の行事をするにも、事業を進め一つことを顔ため、休日をとの決めるにも、諸よく、明る	業、農業、林業などに別れている。はなく、と前落に分れている事と、職業が漁一 これは単例えばこの羽吉の分館は、四ケ 和載の講座たとは言うまでもない。 婦人、若い		載こおいてよ、ミンノ、アイコノ ざれて、その成果も大きく、洋和 講座が特に他の市内各分館よりす	応期における定期	両津市加茂公民館―	ってる定期講座	(真野公民館だよりより))		一行記のももっと	# とたら。またまますの かっとうした。 毎月二十六日を婦人の生活研究 ここでも春への目覚めは活発であ - 「 こたら。またまます」 算関係で開会中の県会に通うなど	ら。たちまわり。		自円貯金、炊	五、高原組(十九戸) ニ十五日李修養日と定めて、テ
(加茂公氏館報より)	の講座を通じて、住みに技術の修得が主眼でに力を入れているが、	特にこの分館では、中年以上の 一生懸命である。 本語をして、まさはそ面 の の 語素員会を構成して、まさはそ面		受、青手部より各部客二名、帰人、長、婦人会長、婦人会長、婦人会長、婦人会各部落支部から、音評400音評長 青年日	客との形容を、育業田画、事業の円滑を計る	そこで五分館は、これらの統一人及ぼしていた。	の反並みを協議した	事が参集して新年度へ言語で名比張所の完美	一月二十二日及び三日は、社会	こでも春への目覚めは活発であ	囲の立案等々この間課長は予始 それに課内機構の再検討と事業計	ら始まって 庁の教育大郷 会議。 三十一年度	る。去る十一日から課貨教育課は新年度の準備。	県社会教育課の近況
1000年三日話以上を採集し、1000年三日話以上を採集し、1000年三日話以上を採集し、1000年三日話以上を採集し、1000年三日話以上を採集し、1000年年、1000年、1000年、100045444444444444444444444444444444444	し要る仕事なのである。	に止めておかねば、何時の間にいめておかねば、何時の間になったものを記録が、だんだん亡びつつある。「民話(民間説話)というものの意記録!」 一者	昔あったてんがな	昭和三一、四刑 B6 三つない。	は資料である。目し召和これに知りた何を見たり、日本児童文学年表も貴重	磨査のよく描かれている。 発力であることである。 そのよく、 してたいている。 そのように、 してたいていた。 してたいていた。 してたいでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでの	になった日本いようにも思われた日本いうにも思わ	異色のものであろう。	それはとも角としてこうした原因の一つなのであろう。	ど、はやく肩屋の手に渡つてし おとなの本にくらべて消耗度も	それは子央の本というものはそれになるそれになった。それにものとい物はまるでなかった。日本で児童文学史の本というとしていたものではなかった。	日本の児童文学	_	
著者は国立国語州究所是。	早山文学となっている。 一日の谷は(1)ことは(1)読話・3)文 ある。 ものるが、比較的平易で 言かれたものである。 綿々専門 この本はそういった観点から	は検討して見る必要がある。 、は無関心である。ことはに回らず、我 、で聴いていることはについて に我々は一般的にことはで 直接いているる。ことはを に限らて、 のでで、 でで、 ででで、 ででで、 ででで、 のることとはについて、 ででで、 でで、 でので、 るので、 でで、 ででで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、	常い。「ことはは習慣であるか でんよくなってゆく」等という。 そのほにしておけは、たん	ある。こと句らず系外閣心がことには社会的通じあいの道西尾の見名	日本人のことば	(、長岡史蹟保存会発行昭和三一、一一刊B6四一四7ある。	いるが領布価格は二百五十円	「郷土資料として是非備え付け」のであるから。	力も見逃してはならないだろう援助された長岡史遺保存会の助	に対し、印刷という発表形式を こうしたすぐれた内容の業績	著作としては、昭和三十年に一社会科と民俗学ー	のがある。	小学校長であり、日本民俗学	字通りつかたでする。

第50号(毎月1回発行)	新	潟	県	公民	館	月	報	昭和32年3月25日 (6	6)
「葉って喋っている暇があったら」だが「兄貴が死んで了いはいい」 と言われて霧の口が無くなる」(て少くはない。このような地域社、こ男は将来の生活設計のた うた言ったって、それで島が増え「ただ働く」という一言以外には、まと次男、金持と養乏人、男と女 でもない」と問用の口がうるさい。 の考えが正しいと思っても、他人、めに何か技術の修得に腐心してい たらろくな事は起こらない」「おれは大根一本でもよけいに作 もっと難しい問題」それは「長 働け」「男と女が集って話し合っ」と買けんに願っている二、三男や それでもし、金ができるわけでない(三重)のだ。だから「自分、え二、三男は将来の生活設計のた もれわれの将来の為には、おこの考えが正しいと思っても、他人、めに何か技術の修得に腐心してい し口)とか、「若いものがえらそ」でにて働く」という一言以外には、ころいう立場の相違いで強いでに し口)とか、「若いものがえらそ」でただ働く」という一言以外には、ころいう立場の相違いでか。 それでもよけいに作 たいちじろくな事は起こらない」「おれは大根一本でもよけいに作 し」とかって、それで島が増え、「ただ働く」という一言以外には し」というて夢い用違い問題」それは「長 し」に、「長」と、二男は将来の生活設計のた それでもてい」(広島)と」非常に困難のようた。 「おっている」、「日本でもよけいに作 ない」に、男と次男、金持と養之人、男と女 し、男となが思いた。 ないという聞ん」に、男は将来の生活設計のた った方がいい」という青年も決し、男は「「おこいう」で一般」というので。 ない」というでも、他人、 ない「日本」のた。 ない」に、 し」というて「「「長」」、 し」ので、 でもよけいに作 し、 のに、 で、 こ男は相様するとのは、 していたし、 していた。 し、 のして、 のた。 でもよけいに作 し、 のに、 し、 のにし、 し、 し、 のにし、 して、 し、 のた。 でも、 して、 し、 のに、 し、 のた。 でも、 し、 のに、 し、 のた。 し、 のに、 し、 のた。 し、 のこ、 のた。 し、 のに、 し、 のた。 ですい。 し、 のし、 ので、 し、 のた。 に、 のた。 ですい、 し、 のた。 のた。 のた。 し、 のして、 のた。 ですいた。 し、 のして、 のた。 ですいた。 し、 のして、 のた。 のた。 のた。 のた。 のた。 のた。 のた。 のた。	いうものはつきまとって離れない」と意気はもっている。	いうした。これ、それに非常にいったまた、たきへをっこきも、「舞酒を出きなければならないから」いる。 「一プの組織などいわゆる。"仲間つ「い労働に貧しさをまぎらわす親た」らった」。。 団長さんになったら振 ばやさしい (山形) という青年も (とによって	しかし青年団の組織、学習グルー理想を失ってその日その日の激し	い力原の力感	ま涂他人の問題でもある」(静岡)というこの"封建"と"貧しさ拓くために、仲間づくりに懸命になっている。一自分の問題がその				新しい地域社会を拓くのに
○ 共通の広場 でより多くの収穫をあげるいかにし りは相続すると用品からいかにし という立場の相違い言葉」それは「長ろ」(和歌山)との相違い言葉しい問題」それは「長ろ」、三男は将来の生活設計のただ る」(和歌山)との相違が同じ場で る」(和歌山)との相違が同じ場で る」(和歌山)との相違が同じ場で る」(和歌山)との相違が同じ場で していか立場は違っていても、		鮮酒を出きなければならないから」。 「「長さんになったら振」	が、貧乏なので他の人になってもさんになってほしいと思っていた	「可夏の七朝までがあの人に可良」の時である。「だ」 「「西夏の七朝までがあの人に可良」の	◎ 振舞酒が出せぬと	きた日本キンラで 一百年下に フ の 近き 城に できたい と 青山	にしたい。「言語」に、「言語」に、いうと答えたものが最も多かったた。「百姓の奴号」「矢韻の名し	である ためです。 ためです。 ためで、 ためで、 ためで、 ためで、 ためで、 ためで、 ためで、 ためで、	
○ 共通の広場存てぬこうと考えある。 ○ 大通の広場存では新会にないためらに青年さえある。 ○、和歌山)との相違が同じ場でした。 ○、和歌山)との相違が同じ場でした。 ○、和歌山)との相違が同じ場でした。 ○、和歌山)との相違が同じ場でした。 ○、和歌山)との相違が同じ場でした。 ○、和歌山)との相違が同じ場でした。 ○、和の条件がかんじからめに青年さえも、また仲間づくと次男、金持と養乏人、男と女」のの条件がかんじからめに青年さえる。 ○、和歌山)との相違が同じ場でした。 ○、日本田保では都会の青年たちにはというのだ。 ○、日本田保では都会の青年たちにはというのた。 ○、日本田保では都会の青年たちにはというのた。 ○、日本田保では「日」、「二男」 ○、日本田保では「日」、「二」 ○、日本田保では「日」、「二」 ○、日本田保では「日」、「二」 ○、日本田保では「日」、「二」 ○、日本田保では「日」、「二」 ○、日本田保では「日」、「二」 ○、日本田保では「日」、「二」 ○、日本田保では「日」、「二」 ○、日本田保では「日」、「二」 ○、日本田保では、「日」、「二」 ○、日本田保では、日、「二」 ○、日本田保では、「二」 ○、日本田保では、「二」 ○、日本田保では、「日」、「二」 ○、日本田保では、「日」、「二」 ○、日本田保では、日本田保市は、「日」、「二」 ○、日本田保市は、「二」 ○、日本田保市は、「二」 ○、日本田保市は、「日」、「二」 ○、日本田保市は、「二」 ○、日本田田田」、「二」 ○、日本田」、「二」 ○、日本田」、「二」、「二」 ○、日本田」、「二」 </td <td></td> <td>いる。 だやさしい(山形)という青年も</td> <td>が、貧乏なので他の人になっても、諦めの考えを切り変えるととはま。かなり多く「生活記録をつけるとしんでもよいからおれ違のグループさんになってほしいと思っていた」ところから出てくる。とうした「」活記録をとりあけているところも、お前はデカイてとはいらない。な</td> <td>研員の七副までがあの人に羽長しのが木当だ一という諦めがこんな」 岡山のある青垣団の話である。「だっ「仲間は二、三人しかできない」 団長を遠慮</td> <td>山せぬと</td> <td>の比号域にできたいと言い</td> <td>イんぷん</td> <td>て書いている。こんなことだから ことだけを考えるのだ」と問考 なことだけを考えるのだ」と同考 なことだけを考えるのだ」と同考</td> <td>って役にたつためには、青年学級</td>		いる。 だやさしい(山形)という青年も	が、貧乏なので他の人になっても、諦めの考えを切り変えるととはま。かなり多く「生活記録をつけるとしんでもよいからおれ違のグループさんになってほしいと思っていた」ところから出てくる。とうした「」活記録をとりあけているところも、お前はデカイてとはいらない。な	研員の七副までがあの人に羽長しのが木当だ一という諦めがこんな」 岡山のある青垣団の話である。「だっ「仲間は二、三人しかできない」 団長を遠慮	山せぬと	の比号域にできたいと言い	イんぷん	て書いている。こんなことだから ことだけを考えるのだ」と問考 なことだけを考えるのだ」と同考 なことだけを考えるのだ」と同考	って役にたつためには、青年学級
や大阪など大都市を近くにひかえ、つた。 や大阪など大都市を近くにひかえ、つた。 や大阪など大都市を近くにひかえ、つた。				グループ学習の第一歩として全国の青年につたえてくれ。そしている」(山梨)などがある。 間が富山の山の中にいることを全 のために文化祭や体育祭を行って、なければいけないと考えている仲		って、われわれの考えが理解されてに認められれば、いつかつみ重な	績でも、それが大人達	 たんたちの言葉やグループの活動意識といった。またまた「形ができただけしかし、こうした中で、立派なに地方では、農開期に団員が出版「のだ。またまた「形ができただけしかし、こうした中で、立派なに地方では、農開期に団員が出版「のだ。またまた「形ができただけ」とかし、こうした中で、立派なに地方では、農開期に団員が出版「のだ。またまた「形ができただけ」とかし、こうにた中で、立派なにたっているところもある。それも活発なグ」はできないという。また「娯楽や」という声が多くのグループ学習のループでも、難しい学問的話合い、趣味の話合いにひかれて入った人をいっていない」(清手)」 ためし、それも活発なグ」はできないという。また「娯楽や」という声が多くのグループ学習のループでも、難しい学問的話合い、準は育年グループの活動意識といって、またまた「形ができただけ」 ためし、こうした中で、立派なにたっては、という声が多くのグループ学習のレープでも、難しい学問的話合い、準は育年グループの活動意識といって、またまた「形かできただけ」 	◎ 生活記録から問題
大阪など大都市を近くにひかえ つた。 大阪など、 大学、 大学、 大学、 大学、 大学、 大学、 大学、 大学	ハーシート・トレー・思って出てきにび、そんばもりは、からくとこうしてえまりいりまし、当の学習ができるだろ「中山君は「答をもって帰えろうと」にとり組んでやろうと努力する意	みんなについてきた。 【れ」といって送り出されたという 【の青年が仰じづくりに、共同学習、「自分達の周囲を見つ」におよくそのなお。こて 死・てく」を、者をの見色いです。 てき 出話れ	「生活記録をつけると」んでもよいからおれ違のグループ「活発に行われ成功していないまでのあけているところも「お前はデカイことはいらない。な」 この事は青年団活動が必ずしも	学習の第一歩として生、国の青年につたえてくれ。そして、もいえる。 梨)などがある。 間が富田の山の中にいることを全 ない」(山口) といわせるの だ と化築や体育祭を行って」なければいけないと考えている仲 エネルギーと言わせなければならす。 「4 3 7 歩く」	んなにも悩みながら、なんとかし「意慾をふくらませてゆき、大きな「仲間が駅まで送ってくれて、こ」られ「友達の心の底に次第に団結	参加した人もかならいたようででやううと努力する意態がくみとにわれ、作為たせのシングます。国立とし、外力	白とよ、中盤ころりなノマでなど。与うこうこ、ようたるとしう見っこの集会に集ってきた青年達の それだけに要山漁村の青年が仰	 ・一、立派な に地方では、農園期に団員が出版のた。またまた「形ができただけこうした中で、立派な に地方では、農園期に団員が出版のた。またまた「形ができただけこうした中で、立派な に地方では、農園期に団員が出版のた。またまた「形ができただけ」 ・いるところは少ない。 達は青年グループの活動気識とい ・いるところから改善 ・ ごをはりという。また「娯楽や という声が多くのグループ学習の ・ ごをはないだろうか。 ・ ごをは青年グループの活動気識とい ・ 、 ・ 、 ・ 、	から問題
た。 しかして明るいものではなか。因でもあると考えられる。 「日本教育新聞より」 た。 しかし、同じ悩みを持、次第に団結定職をふくらませてゆ した青年達が懸命に努力している。 き、大きなエネルギーにまで高め した香年達が懸命に努力している。 ただけでも村に帰って、なければならない」(山口)とい した香葉之がする」という。わぜるものだといえる。 ただけでも村に帰って、なければならない」(山口)とい した香葉の深刻であり、青年達はも活発に行われ成功していないま にあまり深刻であり、青年達はも活発に行われ成功していないま にあまの深刻であり、青年達はも活発に行われ成功していないま にあまの深刻であり、青年達はも活発に行われ成功していないま にまで高め している。しかし、同じ悩みを持、次第に団結定職をふくらませてゆ したまで、しかし、同じ悩みを持、次第に団結定職をふくらませてゆ	いがくみとられ「支援りいりまし」	の青年が仲間づくりに、共同学習	っ、あるつ手でこ炎くに長山点す。この事は青年団活動が必ずしも	もいえる。 もいえる。	意密をふくらませてゆき、大きなられ「友達の心の屁に次第に団結	でやううと努力する意態がくみと一眼に、少いし、共同自主ないなど、	ことは、 中盤ころりなくてたでし 引うこりこ、 よ司たることうれる この集会に集ってきた青年達の それだけに 裏山漁村の青年が 仰	た人たちの言葉やグループの空気 たいう。また「娯楽や」という声が多くのグループ学習の いにひかれて入った人、実態ではないだろうか。 ループの活動意識で、魂まで入っていない」(岩手) め、そのあとの団活動で、魂まで入っていない」(岩手)	いたものに欠けていて、一寸した

)

(7) 第50号	号(毎月1回発行)	新潟	編果 公	民 館	月報	蹈	和32年3月25日
三、前も後も 呼ばの合って三、前も後も 呼ばの合って	こ、わらたるためたかけ合って二、右も左も走かけ合ってそら行け ほら行け公民館へ輝やく希望で 潔よく 薄やく希望で 潔よく すかの花が、心から	客って話せば、常ができる た並そろえて、元気良く たがそろえて、元気良く		おこし、人生観を暗くみじめなものがみ、身体的にも多くの支障を内外共に孤独状態に陥り、性格がき去られ、家庭的に置き去られ、	かく年をとると人間は社会的に置ける対象られたが、単単一位男類	カを求わらってい、弁督・司考え 切から、老人クラブ設造推進のた 特に出席された県社会福祉協議会 特に出席された県社会福祉協議会	老人 ク
更にパネル討論に分科会と、村の (写真はパズ・セッション) パズセッションを説明し、実習、ことを誓い合っていた。 パズセッションを説明し、実習、ことを誓い合っていた。 の 続人会、区長、農家組合等の 館は援助を与えること (教材教員の約百二十名、各部落得から青年 (いの機会を作ること。それに公臣)	で、各町村年に社教研究会を開催はどうにあるか、新生活通動で、各町村年に社教研究会を開催はどう進めむべきか、公民館活動でして来たが、今回会長安沢純正氏の除路はどこか、へ衆道徳は、して研究会が勝かれた。そして話し合いが行なわれた。そして新聞はどこにあるか、新生活通動		て的	これは従来の敬老運動とは本質プの真のねらいである。	ととができない孤独を解消させ、り、老人が家庭生活の中で避ける相互にゆたかな体験を新しく作	力を求わらってい、許利に司義とした語り、新して支援しません。「基いて無限がないようにされねずめの趣旨を説明され、県公運の協一を合わせ、古い友達郷土の若い人」泉を検討して、その土地の特色に側から、老人クラブ設造推進のた一定の集会場所に集り、互いに顔」の生活時間の実態を調べ、その結特に出席された県社会福祉協議会「人達が定期的に、あるいは毎日、「の実態を調査し、特にその老人達れた県公連辞事会の席上において」くそのような状態になりがちな老(六十才以上の男女の自田参加)三月四日、県立図書館に開催さ」のにしがちである。そこで、とか「れるもので、その地域の老人の	∮ ラブを作ろ
(写真はバズ・セッション)の提供)等で、自主的に展開するの提供)等で、自主的に展開すること(教材教具的は優先で、自主的に展開することを誓い合っていた。	A字書な運ては、名町村長絶り、皆譲はどこにあるか、新生活遇虹 A字書な運ては、名町村長につの隘路はどこか、公民館活動 A字書な運ては、名町村長に社教研究会を開催、はどう進めむべきか、公民館活動	川羽村の社教研究会セッションを説明	文部省、全国視聴党教育連盟、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	第二回全日本視	のうち、公民館、保育所、部落集」ある。 集会の場所としては、既住建物解としならない。 動設へ	基ハて無碍がないようこされねず の実態を調査し、特にその若人達 の実態を調査し、特にその老人達 (六十才以上の男女の白田参加)	ら 呼 びかけ
			党聘教育研究子会が三月二十一日第二分	第二回全日本視聴覚大会終る 10世界1日全日本視聴覚大会終る 第1日本語の 第1日	うち、公民館、保育所、部落準、ある。 「おから、今大会の研究成果は期待」のない。 「から、今大会の研究成果は期待」のない。「なった」のの意味を知力が求められているわけで「されている。部会、分科会の主題	力を求めらっこい。許無「四後後」とと言う、新してを含むせい。「基いて無理がないようこされねば「差折、青千玉、婦人会、衍生舌垣」問題見が大きく甘淹にひぎったとめの癒首を説明され、県公連の脇「を合わせ、古い友達郷土の若い人「東を検討して、その土地の特色に一て、公民舘、社会福祉県務所、保」研究協議された。昨年、太陽族映側から、老人クラブ設造推進のた。一定の集会場所に集り、互いに隙」の実態を調査し、特にその老人達「えると」。老人学級』とも呼ぶべき。日常化をいかにすすめるかという特に出席された県社会福祉協議会、人達が定期的に、あるいは毎日、「の実態を読査し、特にその老人達」えると『老人学級』とも呼ぶべき。日常化をいかにすすめるかというれた県公連辞事会の席上において「くそのような状態になりかちな老」(六十才以上の男女の山田参加)「養の向上」という面からのことも考「実践問題を中心に、視聴覚教育のれた県公連辞事会の席上において」くそのような状態になりかちな老(六十才以上の男女の山田参加)「養の向上」という面からのことも考「実践問題を中心に、視聴覚教育のれた県公連辞事会の席上において」くそのような状態になりかちな老	かであるが、老人の社会的目主性」会では、 現在各地に見られる老人の集団 開かれた 開かれた
 連営法 教育 ションと視聴覚 教育 	第三部会	道教育の組織の 第二部会ー視聴	第二分科会―大衆を対象とする	□社会教育諸活動の効果	おりであった。	くきく世命にのまったと された。昨年、太陽族映いかにずすめるかという いかにずすめるかという いかにずすめるかという	社会教育活動の現場に視び行われたが、今回の大一プラリーの設備について、第一回大会では地域視
発見にこの手法を応用すること 増殖がを紹介する。新(立) 「法を記録紹介している。初期 果的であることや、発電設備の に放射性ヨードを用いて、その 造上、原子力の利用が極めて効 医学への応用、特に用状 腺炎 合成ガソリン、合成油脂等の製	の合理的な管理 用いて診断をするという新しい 石油等の天然資源の代用になる 第三部会 - 視聴 ・高の化学 - 成人・一般教養・ ・高の化学 - 成人・一般教養・ ・高の化学 - 成人・一般教養・ ・高の化学 - 成人・一般教養・ ・高の化学 - 成人・一般教養・ ・高の化学 - 成人・一般教養・ ・高の化学 - 成人・一般教養・ の実例を紹介する映画(新) ★ 「原子力平和利用シリーズー 一人、中 一人、中 一人、一般教養・ の学の大学し成人・一般教養・ の学の大学ーの大手の大学ーの大学ーの大学ーの大学ーの大学ーの大学ーの大学ーの大学ーの大学ーの大学ー	他立案を植物や家畜に応用して 実際に京子力が利用されている 平和利用の一面である放射性同語の形式で展開し、医学の上に一般教養及び農業技術。 原子力の 治療対策をたてる医者の話を物 レーサーとして患部をつきとめ	→ 分、小の高学 すいせいになっていた。	ても説明して ・ 「原子刀平和利用シリーズ医の方法につい ・ 「原子刀平和利用シリーズ医 ・ 「原子刀平和利用シリーズ医 ・ 」の構造とその性質、実体等基	その他日本の独創的な活用であ ーズの第一部の本常では、原子のように利用されているかを、 学年及び中・高の化学ー成人・ 加位元素が、現在日本においてど サードローフーニー クーバー	一般成人の教養。特に放射性詞の他防禦装置等を紹介する(新)、一般成人の教養。特に放射性詞の他防禦装置等を紹介する(新)、本「原子力の恵み」三三分、小物・榕接等の瑕の検出に応用し上・中) そ工業方面での応用の一例、鋳を工業方面での応用の一例、鋳	A vinterest international i

·····	第5	0号	(拍	ī月	13	発行	亍)				•		新		渴	唭	H N	公		民		館	J	· 月	彝	2			阳和	\$ µ32 :	年 3	月2	凹	(8	;)
初産の弱さんが少し腎臓が悪い」い		50°	に、どうしてそう気になるのでし」			なる見込がありますか」と、いよし	が」と答えると「どうです、よく」								したかにここみいけている。「お」				「言わって」「朝いれる。一十年」	主参りとすまた、くことうこを出すことにしてそのように処置	() おせつかい () の		安塚町	1 + -	なぜでしょう	[[][][][][][]]				使			相応		
いわれる人が多い。これはどうい	「酒を飲まぬ時はよい人だか」と	三酒と煙草	の如くです	まみたいに大きくなることは以上	しいなわら任てきた。噂力雪たる	いいにいったいたのないで、こと	したけした。こしいつきため一に	ョトノとして頃をして「まじまま」	ら部室に上ったら、産婆さんがキ	くかね、埋めるかね」といいなが	事で何よりだった。赤子の方は焼	の敷居をまたぐや否や「母親が無」	の親父があわててかけつけ、 媚家	噂が広まった。これを聞いて実家	たが子供は死んだそうだ」という	った。少したつと「母親は助かっ	なく「難産らしい」という噂が立	ら」といって帰った。すると間も	して「明日の夕方頃生まれますか	を出すことにしてそのように処置 	ので予定より十日はかり早く子供		小池生	Ż	か	C									
	おら草刈ってやる	朝早くとび起きて	▶ 可愛い仔牛を生んだら	春になってお前が		宝だよ	~ お前は家の宝たよ	青山をこうこうとでる	19月1日ゴノゴノニトろ	・ わらで皆中をしする	お前を外に出してやる	・ 陽がさしたら	雪が消えてあったかい		数神青年会	`			戦時中はよくあったことだが、		回殺し文句	ら、煙草を余り吸わぬ事ですね。	そこで酒の菩提味を味いたかった		てしまう。 酒飲みがあまり 煙草を	れてホロ苦い愛鬱なものになっ	草を吸えば、下等と高等が相殺される。派を負みたたさやすると同	ある。西を大みまけらっこうこ四(これは薬理学的にニコチンが大脳と		る。何か物を考える時「一寸一服」」	ヤヤ下等は生谷が長前こ出しく、病させて抑制がなくなるので、	WIN	う訳でしよう。薬理学的にいうと
	(大和村公民館報より)	宝だよ	お前は家の宝だよ	仔牛もおらが宝だよ	仔牛を大事に可愛がる	上井にした。てやる		乳房が丸くふくれたら	仔牛が生れてお前の		宝だよ	お前は家の宝だ	青い草刈ってやる		▲山口 松枝 →		.		を引いてみましたら一度心地のよ	ション・ション・ショート・サンド 初二ージィの意味力半にす。 登書	リカーシーン教会に出って、辛青されたことで、「「「」シーン教会に出っていた。	9月10年11月11日を記録して。最早近11月11日の元に「11日を記録した」	単角尺り払こ「コーシイコーナー	をしていたころ、仏軍の将核が、	仏田のサイゴンでキャンプ生活い」「	柿崎公民館長	コージイ・コー		う。日く「東頚城振興のために」	よく軽っぽくこういう文句を使てくる文句である。	び出してくる。そして、政治家は	いギヤップのある所、いつでも飛して行いたか。	し父司は固人と司本の同語こべき	国のためにこという殺し文句でい	唯一人の息子を失った母親が「お」 ビく「
(解料・かきさきより)	協力を元カビお願いしたします。	することにしています。皆様の彼	ンショーとして一般に創業者手行	ノジャーニュ、「「二官被を格子」。	たたに、非で角いナオし、ノレクロ	「よがら、すら伴すこさ」やべりり	やそれどけではく、このさきやか	イコーナーにしたいものです。い	私達の公民館も、柿崎のコージ	たのです。	いなごやかな一隅と化してしまってもかい	送在認めす 隠紛もたし合いも知	「領信の無や、位階東等や、貿易の	なってしまいました。ここの記は	な居心地のいい一心の安息可」と	黒人も曰人も集って来て、国際的	と記利をしました。将移を兵士を	ここで打ち所けて記し合おとう	を引いてみましたら 居心地のよ 輪さして、椅子を五六隅ならべて	シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	トニアムネワニノニ熟春の吃を一 この「降らす」こうな話で、ショ	プロー関ごテープレを置き、その プロー関連第一トンゴ北加京した。		と言う様な意味でした。	い」「話好きの」「打ち解けた」	井上教円	 	•	(安塚町公民館報より)	てくる文句である。	ップが大きいほど何か空虚に響い	句は生まれないはずである。ギヤ) 父司は阎人と司本の向空にたき マテく時ま、こういう筈をしい文 い気時になっていた。こういう殺 て、しかもそれが調和よく発展し	儲	ロく「安塚発展のために」と
ビホンクラでも自務は多しますまし、近、現得を裏切るのれ	★「我々てとき機井氏」とはいく は期待しています。	なった訳。それがあのザマです。		いうのも弱彦の職員講習に出かけしい「特派員」が沢山に誕生致し	ませいればいたいかった。こことの言葉を信じた次第──と★職員講習会も有意義に終り、新たたら、非す角にナオし、ション	は私達の方で責任校正致しますか 革新的な企劃をお寄せ下さい。	れずにいたのです。そして一あと			「言語の、諸臣」、副臣言言の「	★学邦末上邦度末上で印刷屋が多しまった。 おしましたし、それにしる川	言れていて、それでおうし、、	mana of a mark of a mark 調査でつけたに気寸かれたとして一般は、いて思想を明わらっこを発行電の考や「位曜東等や」留意の「シュー」で「リーフィンシュー」で、「レー」するの一ク月に多れてした。専場	しとういう、ハーサドラ、そしう「少くとら、意味がとれなかったら」という「アーサキシ」をしてき、今番なってしまいました。ここの語は「アドム・シュア・フィー・マ・テクロ後を旅る後期しまします	にないたいという。このまたしたものではなかっていた子で手すな居心地のいい一心の安息可しというでしてありる言語しています。	一方可り回転後記は、ここら売り	۲k ۲k	▲高	1			言			対市公民館だより、 広報かたまち 公連公民館報、公民館福岡	町のあゆみ(吉田町公民館)、見	報、紫雲寺町公民館報、こすど、し本2日創幸」に対け力さな目的	広報たかだ、公民館報うちの、川	り、新井だより一牧村公民館報、	水準公民館報、真野公民館だよ	「素細は、次のとおりでした。 あり	1 6.		ţ	一 ご 寄 憎 あ り
一、治、現得を美切るのれ。(毎)		ースが送られて来るものと編集部	ました。これからドシドシとニュ	しい「特派員」が沢山に誕生致し	★職員講習会も有意義に終り、新	革新的な企劃をお寄せ下さい。	れずにいたのです。そして一あと一来ていると存じます。皆様よりも	一羽々ごとき想限細」には目もく一度し、一大成長を羔すべき時期に	そこです。県公連もこの辺で版		きらまで熟いよらりでした。	そったいことでしていている。	また、大云栗明ら削すらここを深	その確認がる征風い至します	- 今後は大いに気を付けます。 何		「 れば、天才が核正したものと思	-		・ か、何んとなく図屋をさされた	•		2	○ 「後見た」 ○県の名) 家子	三公連公民館報、公民館福岡	町のあゆみ(吉田町公民館)、見福県農協青年、道義再建、富山県	戦、紫雲寺町公民館職、とすど、「物館ニュース、ユネスコ新聞、新した21gmm」は本21gmm」は本21gmm」に本21gmm」に本21gmm」であります。 ほうす	「尾新聞」 参源県人会(東京) 新	公民館報、夏野公民館だより、栃	水津公民館報、真野公民館だよ一報、松代(松代公民館)、黒川村	こ、小木町だより、安豫町公民館	館報かきざき、公民館報(両津市	二月十五日から三月二十日までしょうとの、広報といった取つより	-	がとう

-

\$